

| 項目                                 | 確認事項  | 届出内容  |
|------------------------------------|---|---|
| <b>基本情報</b>                        | 大学等名1(代表大学等)  | 追手門学院大学   |
|                                    | 大学等名1(代表大学等)※カナ   | オウテモンガクインダイガク   |
|                                    | 大学等名1(代表大学等)※学校コード  | F127310108072   |
|                                    | 大学等名1(代表大学等)学校本部所在地   | 大阪府   |
|                                    | 大学等名1(代表大学等)学校種別  | 私立大学  |
|                                    | 科目名   | インターンシップ実習Ⅰ、インターンシップ実習Ⅱ、インターンシップ実習Ⅲ、インターンシップ実習Ⅳ   |
|                                    | 学部・研究科等名  | 基盤教育機構  |
|                                    | 担当教職員名・役職   | 大串恵太 特任准教授  |
|                                    | 受講者数実績年度  | 令和2年度   |
|                                    | 受講者数※インターンシップ参加者数   | 91  |
|                                    | 受入企業等数  | 17  |
|                                    | 受入企業等名  | <p>夏期(8-9月)：</p> <p>(一社) Community Careers、大阪市立男女共同参画センター、大阪石材工業(株)、(株)アスナロ、(株)スーパー・コート、(株)スパイスアップ・アカデミア、(株)フジタ、(社福)京都福祉サービス協会、(社福)くらしのハーモニー、太平ビルサービス(株)、フクシル(株)</p> <p>春期(2-3月)：</p> <p>KCJ GROUP(株)、(特非)いばらき、(学)追手門学院 幼保連携型認定こども園 追手門学院幼稚園、門真市</p> <p>長期(学期中を含む2ヶ月以上)：</p> <p>(学)追手門学院 追手門学院大学 入試課、(株)ガンバ大阪</p> |
|                                    | インターンシップの分類   | <p>1.長期(概ね1か月以上)インターンシップ</p> <p>3.海外インターンシップ</p> <p>5.他県をまたぐ広域インターンシップ</p> <p>6.低学年(大学1年次~2年次程度)からのインターンシップ</p> <p>8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ</p> <p>9.中小企業でのインターンシップ</p> <p>10.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ</p>   |
|                                    | 上記以外のインターンシップの分類(記述欄)   |   |
| 1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。 | 1.はい  |   |
| 1-2.該当する就業体験                       | <p>1.企業等における業務への従事</p> <p>2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)</p> |   |
| 1-2.で「3.その他」の就業体験の内容               |   |   |

|   |   |  |
|---|---|--|
| <p style="text-align: center;"><b>要素①</b></p> | <p>1-3.上記回答内容に関する詳細</p>   | <p>夏期（参加24名、オンラインインターンシップ）：<br/>各受入事業所の業務及び事業推進に関わるプロジェクトに取り組むインターンシップ。夏期（8月～9月）に実施したインターンシップについては、コロナ禍の状況をうけ、全プログラムをオンラインで実施した。</p> <p>春期（参加6名、オンライン型・対面型・ハイブリッド型）：<br/>各受入事業所の業務及び事業推進に関わるプロジェクトに取り組むインターンシップ。各受け入れ企業の状況に合わせて、協議の上で実施形態を決定した。</p> <p>長期（参加66名※夏期・春期との重複参加5名含む、対面型・ハイブリッド型）：<br/>各受入事業所の業務及び事業推進に関わるプロジェクトに取り組むインターンシップ。</p>  |
| <p style="text-align: center;"><b>要素②</b></p> | <p>2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。</p> <p>2-2.該当するインターンシップの内容</p> <p>2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容</p> <p>2-3.当該インターンシップを実施する年次</p> <p>2-4.当該インターンシップで付与される単位数</p> <p>2-5.上記回答内容に関する詳細</p> | <p>1.はい</p> <p>2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している</p> <p>6.当該インターンシップは、選択科目として実施している</p> <p>7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している</p> <p>8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している</p> <p>大学 学部1年</p> <p>大学 学部2年</p> <p>大学 学部3年</p> <p>大学 学部4年</p> <p>大学 その他</p> <p>実習時間数により1～4単位を認定。インターンシップ実習Ⅰ～Ⅳと、各1単位で4科目設置している。（事前事後研修は含まず）実習時間数30時間につき1単位とし、上限4単位までを事後認定。例えば初めての参加で実習時間が70時間であれば、インターンシップ実習ⅠとⅡで2単位認定される。</p> |
|   | <p>3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。</p> <p>3-2-1.該当する事前学習の内容</p> <p>3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容</p> <p>3-2-2.該当する事後学習の内容</p>                                 | <p>1.はい</p> <p>1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている</p> <p>2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている</p> <p>3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている</p> <p>4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している</p> <p>1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている</p>   |

|                       |   |   |
|-----------------------|---|---|
| 要素③                   |   | 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている  |
|                       |   | 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている   |
|                       | 3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容   |   |
|                       | 3-2-3.該当するモニタリング  | 3.その他   |
|                       | 3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容   | 夏期：<br>コミュニケーションのプラットフォームとして大学で用意したビジネスコラボレーションツール（Slack）上での動きのチェックと、日報の記述内容の確認。また、相談や質問などの受付。<br><br>春期・長期：<br>実習期間中に担当教員による事業所訪問や連絡、実習への随行など。 |
|                       | 3-3-1.事前学習の内容に関する詳細   | 実習参加の目的や目標を明確化するためのワーク、ビジネスマナーや仕事現場でのコミュニケーションに関するトレーニング。オンラインツールの使用方法などに関するレクチャー。  |
|                       | 3-3-2.事後学習の内容に関する詳細   | 実習の振り返りワークに加え、実習報告会（学生個々人とグループによるプレゼンテーション）を実施。   |
| 3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細 | 夏期：<br>コミュニケーションのプラットフォームとして大学で用意したビジネスコラボレーションツール（Slack）上での動きのチェックと、日報の記述内容の確認。また、相談や質問などの受付。<br><br>春期・長期：<br>実習期間中に担当教員による事業所訪問や連絡、実習への随行など。 |   |
| 要素④                   | 4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。   | 1.はい  |
|                       | 4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み   | 1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている   |
|                       | 4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み   |   |
|                       | 4-3.上記回答内容に関する詳細  | 社会人基礎力の伸長を評価するセルフアセスメントを実施。   |
| 要素⑤                   | 5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。   | 1.はい  |
|                       | 5-2.該当する実施期間  | 1.連続した5日間以上の実施期間を確保している   |
|                       | 5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合   | 連続性のある5日間以上・30時間以上を基準として実施  |
|                       | 5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合   |   |
|                       | 5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合  |   |
|                       | 5-2.「4.その他」の実施期間の内容   |   |
|                       | 5-3.上記回答内容に関する詳細  | 連続性のある5日間以上・30時間以上を基準として実施  |
| 要素⑥                   | 6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。  | 1.はい  |
|                       | 6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容  | 1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してプログラムを設計している<br><br>3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている                                      |
|                       |   |   |

|        |  |   |
|--------|--|---|
| 要素⑥    |  | 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している  |
|        |  | 6.企業と協働して、PDCAを実施している   |
|        | 6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容                               |   |
|        | 6-3.上記回答内容に関する詳細   | <p>夏期：</p> <p>事前5回、事後1回、事業所と大学との「オンライン型インターンシップ開発検討会」を実施し、その中で実施内容や方法について議論、企画した。具体的なプログラム内容については個別に打ち合わせを重ねて設計している。事後については実施を振り返り、次期へ向けての改善点の整理と、プログラム実施の際のポイントの整理をおこなった。</p> <p>コミュニケーションプラットフォームとしてSlackを活用し、大学の担当コーディネーターもチャンネルに加わって実習の進行状況を確認すると同時に、事業所の担当者ともコミュニケーションを図りながら実習を進めた。また、学生が日々記入する日報に対してもSlack上で事業所の担当者からコメントを戻していただき、日々のPDCAサイクルを回すことができた。</p> <p>実習終了時には事業所担当者より学生個々人の評価をいただいた。</p> <p>春期・長期：</p> <p>実習内容や実施方法については担当教員が各事業所との協議の上で決定。モニタリングの欄で記載したように、実習中にも各事業所とのコミュニケーションのうえで実習のスムーズな進行を図った。</p> <p>実習中は学生が日々記入する日報に対して事業所の担当者からコメントを戻していただき、日々のPDCAサイクルを回すことができた。</p> <p>実習終了時には事業所担当者より学生個々人の評価をいただいた。</p> <p>事後には担当教員が事業所を個別に連絡・訪問するなどし、次期へ向けての改善点の整理をおこなった。</p> |
|        | 7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL | <p><a href="#">【シラバス】</a><br/> <a href="https://syllabus.otemon.ac.jp/syllabusHtml/2021/A1/A1_M157001_ja_JP.html">https://syllabus.otemon.ac.jp/syllabusHtml/2021/A1/A1_M157001_ja_JP.html</a><br/> <a href="#">【大学HP】</a> <a href="https://www.otemon.ac.jp/career/student/internship.html">https://www.otemon.ac.jp/career/student/internship.html</a></p>  |
| 問い合わせ先 | 大学等名   | 追手門学院大学   |
|        | 担当部署名  | 教学企画課   |
|        | 担当者役職名   |   |
|        | 担当者氏名  | 奥田 祐士   |
|        | 電話番号   | 072-641-9706  |
|        | メールアドレス  | <a href="mailto:intern@otemon.ac.jp">intern@otemon.ac.jp</a>  |